

るるる



今号の表紙

寿幸苑居宅介護支援事業所

PICK UP

- 1 それぞれの暮らしを見守る
- 2 スマホの中の、とっておきの思い出

HELLO! NEW STAFF

鯉谷さんのひとりごと

暮らしを見守る それぞれの



利用者さんのお宅で話を伺うケアマネジャーの山本さん

生野区、東住吉区、平野区で暮らす利用者さんを見守るケアマネジャーのふたり。周囲と連携しながら気を配り、支援する姿を取材しました。

自宅で暮らす利用者さんが適切なサポートを受けられるように、事務所でケアプランを作成したり、多職種と連携したりしながら支援に取り組む山本さんと田中さん。「月に一度の訪問（面接）では、玄関を開けた時から『以前と変わっていることはないか』『変なことはないか』という所を見るようにしています。靴の脱ぎ方が変わっていたら“動作面で変化が出ているかもしれない”、散らかっていたら“判断力や物の見方が変わっているかもしれない”。匂いやご本人のつぶさな様子も確認しています」（山本さん）。今までに、ご家族と暮らしていてもネグレクト（お世話の放棄・放任）で衛生的な暮らしをできていなかった方や、医療的なサポートを正しく受けられていなかった方もおられたそうです。「問題あるケースもたくさんあります。でも、その方の人生に関わって『ありがとう』とい

う声を聞けると嬉しいしやりがいを感じます」（山本さん）。また、以前はグループホームで勤務し、昨年から居宅のケアマネジャーを務める田中さんは「難しいことも多く感じますが、ドクターや訪問看護師さん、ヘルパーさんなどいろんな職種の方と連携して、ご本人の状態や暮らしが改善した時はすごく嬉しい。いろいろな方法を考えながら、その方の生活が良くなるように向き合っていきたいです」と話してくれました。

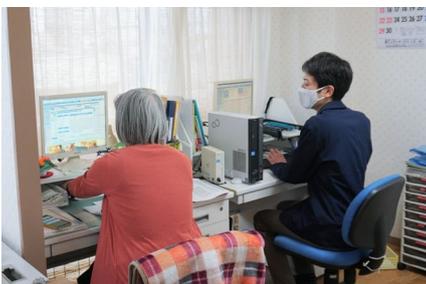


主任ケアマネジャー
山本さん

利用者さんの日々の様子についてヘルパーさんに話を聞き、その方の状態をきちんと把握できるようにしています。中期的、長期的な目標をふまえながら、その方の暮らしを支援していきたいです。

寿幸苑居宅介護支援事業所

業種：居宅介護支援
住所：大阪市生野区林寺4-14-12-402 / 従業員数：2名



情報共有しながら机に向かう二人



地域の人との交流活動も大切に

るるる日誌 - 日々のできごと -

11/1



ヘルパーステーションの管理者・葭原さんと担当する利用者さんについて話しこむ山本さん。日々の暮らしぶりや懸念事項について細かく情報を共有していました。

11/3



利用者さんのお宅や関係各所に向けて、雨の日や雪の日も、夏の暑い日も、自転車で街を走る田中さん。細い道や入り組んだ道も多いですが、もう大分覚えたそうです。

11/5



利用者さんへ、人生の歩みをまとめた写真集をプレゼント。「制作を通じて、ご本人のことをもっと知ることができました。距離も前より近くなった気がします」（田中さん）。

スマホの中の、とっておきの思い出

あっという間に過ぎていく時間の中には
確かに心惹かれたり、心に残る出来事があるはず。
今回はそんな思い出をスマホの写真から ひも解いてみました。

聞いた人：ライフェル駒川、ヘルパーステーション、サボテンの花、寿幸苑の職員さん

阪急 大阪梅田駅で激写

めちゃくちゃに可愛いラッピング電車の写真を見せてくれたのは、ライフェル駒川介護士の豊島さん。「大好きな『すみっこぐらし』と阪急電車がコラボしたことを知り、梅田駅で撮りました!」。同電車は2020年9月から今年の3月末まで神戸線、宝塚線、京都線で運行しているようで、



車体前面・側面・車内ポスターと、車両のあちこちが「すみっこ」の絵柄でたくさん。ゆるキャラ好きな豊島さんは、今回も期間限定のコラボ企画を知って喜んで見に行ったそうです。

【 答えてくれた人 】 - - - - -

ライフェル駒川で2階～6階を担当する介護士の豊島亜衣理さん。ゆるキャラに目がなく、キャラクターとコラボしているお店に行ったり、専門店に行ったり、展覧会へ行ったり。特に好きなキャラクターはリラックマとムーミン。



コロナ禍の運動会

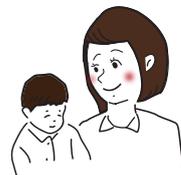
ホームヘルパー・木下さんの一枚は、10月に行われたお子さんの運動会の写真。「コロナ禍での開催ということで、規模を縮小し、参加人数の制限を設けての開催となりました。変えざるを得なかったことがたくさんあった運動会でしたが、子ども達の成長や伸び伸びとした姿など、変わらないこともたくさん見られた思い出



深い運動会にもなりました。こんなご時世でも子ども達は目標に向かって一生懸命頑張っているなあって胸が熱くなりました」と話してくれました。

【 答えてくれた人 】 - - - - -

ヘルパーステーションに所属し、在宅の方への訪問介護を担当する木下美佳さん。ケアカレッジで初任者研修を修了した後もヘルパー研修を受講したりと勉強熱心。小学生のお母さんとして、家事・育児ともども励まれています。



家族でハーベストの丘へ

大きなおばけカボチャ前の一枚を送ってくれたのは、サボテンの花水原さん。「新型コロナウイルスが流行っているので外出を控えていましたが『屋外なら良いのでは』と家族で行きました。動物の餌やり、観覧車、噴水で水遊びと、子ども達は大満喫。親としては湯水のようにお金を使わされましたが、子ども達は久しぶりの外出を非常に喜んでくれました」。



【 答えてくれた人 】 - - - - -

サボテンの花で管理者を務める水原文裕さん。事務所での仕事に加え、介護の現場で人手が足りない時はヘルプもされています。家族思いの良いお父さんで、法人が出店している地域の夏祭りにお子さんと来てくれたことも。



日々癒やしてくれるアイドル

寿幸苑3階の介護士・岡林さんが見せてくれたのは溺愛しているペットのフクロモモンガ・リンちゃん。ベストショット! もともと弟さんが飼い始めたものの、いろいろな過程を経て岡林さんが世話係に。



好物はジャガイモで、器用に手で持って食べられます。左の写真はクリクリした瞳で「ごはん!」と訴えたにも関わらず、なかなかもらえなくて拗ねってしまった様子です。

【 答えてくれた人 】 - - - - -

寿幸苑3階でユニットリーダーを務める岡林望さん。しっかり仕事に向き合うキリッとした顔を持つ一方、リンちゃんのことや入居者さん、可愛い後輩のことになるとハニカミながら話してくれるギャップも魅力。好きな俳優は綾野剛さん。



各事業所で、ときには外にとびだして、最近行なわれたさまざまな活動を紹介します。

1 嬉しい温かなプレゼント

日時：10月16日(金) 場所：ライフエル駒川

ドミノ・ピザさんより、たくさんのピザの差し入れが! 新型コロナの影響で困難な状況が続く中、「無料ピザで地域支援活動」に取り組まれているそうです。とても嬉しい温かなお心遣い。本当にありがとうございました。



2 ホテル暮らしの方に差し入れ

日時：11月26日(木)～11月30日(月) 場所：寿幸苑

新型コロナの家庭内感染を防ぐため、一時的にホテル暮らししていた数名の職員さん。「手作りのご飯が恋しい」という声を聞いた医療事務・鈴木さんの呼びかけで、料理上手な4階介護士さんと事務所職員がお弁当を手作りしました。



3 職員みんなで、いろいろ企画

日時：2020年 場所：サボテンの花

新入職や異動により、新しい職員が増えた小規模多機能型居宅介護サボテンの花。8月は炭火バーベキューやスイカ割りをしたり、9月は職員が松花堂弁当を手作りしたり、マジックしたり。工夫を凝らし、みんなでいろいろ企画しました。



4 日本へようこそ!

日時：1月24日(日) 場所：寿幸苑

新型コロナの影響で予定が遅れ、12月に来日した留学生たち。「初めて味わう日本の冬、寒くて辛そう」ということで、職員が要らなくなった冬服を寄付。持ち帰り会には先輩のハナ・メイ・ジョイも立ち合い、大盛り上がりしました。



Hello! NEW STAFF



ケアワーカー
藤森 三紀さん
(寿幸苑)



ケアワーカー
北川 天流真さん
(寿幸苑)



ケアワーカー
金城 恭子さん
(ヘルパーステーション)

AND
MORE!

ケアワーカー
竹田 光江さん
(サボテンの花)

出身	愛媛県	大阪府大阪市	大阪府大阪市
好きな食べ物	米・みかん	寿司	サーモン チーズケーキ
好きなこと・特技	山登り	音楽鑑賞	スキューバダイビング

※10月～12月末の入職者を紹介しています

SNSも更新中!

浪速松楓会のいろいろな情報を、ゆる〜く発信中! 社内報では伝えきれない日常の様子や取り組みを紹介しています。気軽にのぞいて、気が向いたらイイネしてください♪



鯉谷さんの



ひとりごと

No.009

対話元年

僕は人と話すのが得意ではない。そんなことを言う。「いやいや、得意そうですよ」と言われることはありますが、内心は1人で居る時が一番好き。対話の時にはどこか無理している自分がいます。ただ、それでもやはり対話って大事だと思うし、上手にできるようになりたい。そんな思いもあって、いま「マネジメント研修」を受講しています。この研修、個人的にはすごく面白い。なんで自分は対話が苦手だと思っているのか。どうしたらもっと上手になるのかが少しずつ分かるようになってきました。エッセンシャ

ルワーカーという世の中になくはならない仕事として再び注目されている介護。その一方で、現場ではいろんなストレスが増えてきています。いま、僕はそんな現場の課題を改善できる唯一無二の方法は対話だと思っています。みんなの辛さを痛いほど感じられて、今できることを一歩ずつ考えていく方法は対話しかない。これを「苦手」と言って今まで疎かにしてきたことを後悔しています。これからここを「対話」を大切にできる職場にするために、まずは自分から、内心戸惑いながら対話の時間を作っていきます。